

研究テーマ	[ I 素材（材料や用具，場所など）と出会い，かかわること] 学び合いの場を工夫し，表現力を高めることの出来る授業の工夫 －中学校 3 年生 「和菓子 DE アート」の実践を通して－
-------	---

行方市立麻生第一中学校 教諭 佐久間 晃子

## 1 研究テーマについて

中学校学習指導要領解説美術編では，目標として「基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。」とある。その中で，和菓子は日本の伝統と文化を象徴するものであり，その姿や形，意匠から美術文化と密接した関係にあると考える。また，内容として「材料や用具の特性を生かし，自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること」とある。日本の伝統文化である和菓子を作る上で，和菓子の持つ意匠を大切にし，自身が考えた和菓子の意図に合った素材と出会うことで，工夫を凝らした表現を追求させたい。

実態調査より，作りたいものや描きたいものの発想を練ることを楽しんで授業に取り組もうとする生徒が多い。しかし，アイデアを練り出すことは楽しいが，思うようにいかず苦勞している場面が多く見受けられる。そのためか，参考作品をよく見たり，友達や教師からのアドバイスをもらって，より質の高いものを作ろうと意欲を持って活動しようとする生徒が多い。

中学校美術科では，学習指導要領解説美術編の共通事項として「形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情を理解すること」とある。表現力を高めていくためには，アイデアをまとめていく構想力を身に付けることが必要になる。さらに，材料を吟味した上で，形や色彩など，意図に合わせた表現の工夫も必要になる。

そこで，生徒の作りたいものや描きたいものの発想を大切にし，用具の使い方を工夫したり，素材の感触を触って感じ取りながら，アイデアを広げていきたいと考える。実践例は，和菓子の構想を練る段階として，材料となる粘土を実際に手で触り，感触を確かめるなどを通して，試作品を作りながら，粘土の持つ性質を生かしたオリジナルの和菓子の制作ができるように発想を広げていく活動である。それらの中で，表現力をより高めていくことをねらいとしている。

### ○ ねらいに迫る手だて

#### (1) 和菓子の持つ意味を理解させる。

どんな和菓子にも，季節感を表現したものや，物語があることを伝える。和菓子の写真や，製造過程の DVD を見せて，和菓子についての基礎知識を持たせる。和菓子のかたちや色には，たくさんの意味があることを知り，興味深く聞いていた。

#### (2) 和菓子を作る上での表現方法の提示をした。

和菓子は，以下の中の条件の中で作られている場合が多い。①菓銘で物語を楽しむこと。②割った時に中身の世界で遊ぶこと。③四季を感じる。この3つの中から，どれにポイントを置いて制作するかを選ばせた。そのことで，作りたい和菓子のアイデアに焦点を絞って制作できた。

#### (3) 制作手順が分かるように，板書の工夫とワークシートを配付した。

和菓子についての解説を付けたワークシートや板書で，表現方法の提示をしたり，制作過程の流れを書いていつでも次への活動がわかるようにした。また，和菓子のコンセプトが明確になるようなスケッチが出来るよう，考えたオリジナル和菓子の「販売企画書」を制作させた。

#### (4) 学び合いの場を取り入れる

先述したように，友達や教師からのアドバイスを求めて，自分の作品をより質の高いものにしたいという意識が高いため，グループ形式の座席の中で，自分が考えた和菓子のアイデアを発表し合ったり，粘土の素材の違いについて話し合う活動を取り入れた。相談活動を取り入れたことで，友達と自然に意見交換ができた。

## 2 実践例

### (1) 題材名 和菓子 DE アート

### (2) 目標

- 和菓子の名称やデザインなどに興味・関心を持ち，意欲的に制作・鑑賞しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- 食べる人の立場に立って，和菓子としての目的や機能，材料の持つ特性，造形的な美しさなどを総合的に発想し，構想を練ることができる。  
(発想や構想の能力)
- 材料を吟味し，色彩や形などを工夫し，道具を効果的に使用して自分の構想を表現することができる。  
(創造的な技能)
- 和菓子に込められた日本特有の美意識や季節感を感じ取ると共に，伝統工芸や伝統文化などから造形的なよさや美しさ，創造力の豊かさなどを理解し，そのよさを味わうことができる。  
(鑑賞の能力)

### (3) 指導計画（7時間取り扱い）

次	時	主な学習内容・活動	評価の観点
1	1	和菓子を鑑賞する。 ○ 和菓子がいかに作られているかなどの製造法を知る。 ○ 和菓子の持つかたちや意匠，色や楽しみ方を知る。	・参考作品や映像を見て，和菓子の持つ美しさや表現の意図を感じ取り，造形的なよさや美しさを味わうことができる。 (関心・意欲・態度)

2 本時は第1時	オリジナル和菓子づくりの構想を練る。 ○ 表現材料や道具を吟味しながら、かたちや色彩、材料の特性を生かした作品を構想する。 ○ 食べる人のことを考えて、季節感、配色、材料の持つ特性から発想し、構想する。	・自分の表したい意図を色彩やかたちなどの視点から具現化し、アイデアスケッチなどで表現することができる。(発想・構想の能力)
2	3 オリジナル和菓子をつくる。 ○ 用具を工夫して使用し、材料の特性を生かして表現する。	・色彩やかたちを工夫し、道具や材料を効果的に使用して、自分の構想を表現することができる。(創造的な技能)
3	1 お互いの作品を鑑賞する。 ○ 和菓子の品評会により、和菓子のコンセプトを発表してプレゼンテーションする。	・自分の作品を発表したり、友達作品を見たりしてその作品の意図を感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

(4) 本時の指導

(1) 目標

○ 材料を吟味しながら和菓子の制作過程を実体験し、自分が表したいイメージをつかみ、表現することができる。

(2) 準備・資料

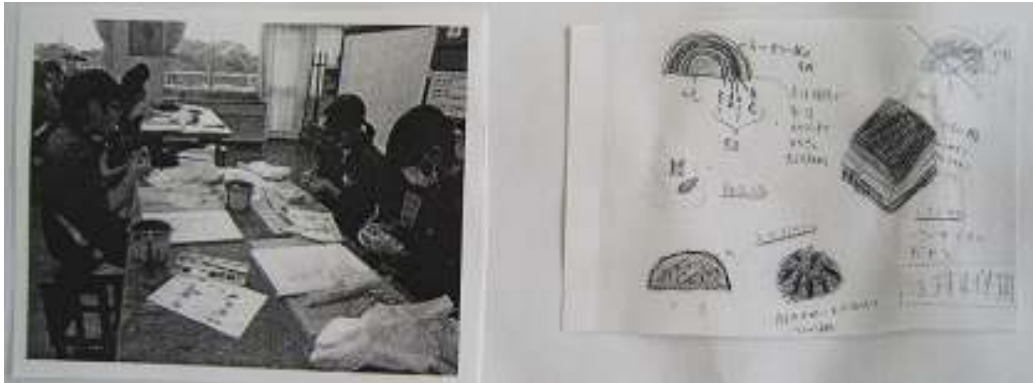
○ 資料集、教科書、スケッチブック、参考作品、スクリーン、プロジェクター、ワークシート、絵の具、パレット、筆、粘土、粘土へら

(3) 展開

学習内容・活動	支援の手立て・評価 (※評価) ゴシック体は共通事項
<p>1 前時を振り返り、本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>材料を吟味して、オリジナル和菓子のアイデアを考えよう。</p> </div> <p>2 試作品を制作する。</p> <p>(1) 「あん」の部分制作する。粘土をこねて絵の具で色づけしながらかたちをつくる。</p> <p>(2) 「皮」の部分制作する。色づけしながら平らにする。</p> <p>(3) 「あん」を包む。</p> <p>(4) 形を整えたら、切り込んで、割ってみる。</p> <p>3 アイデアスケッチをする。</p> <p>(1) ワークシートを参照して、和菓子のもつよさをもう一度確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季からイメージする。</li> <li>・菓銘で物語をつくる。</li> <li>・中身の世界で遊ぶ。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(2) アイデアの参考になるように、四季からイメージした和菓子の紹介や、中身の世界で遊んだ参考作品などの紹介を聞く。</p> <p>(3) 今日のスケッチ画について、グループの中で見せ合い、気づいたことや感想を述べ合う。</p> </div> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>5 後片付けと次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子の製造法を再確認させて、和菓子の持つ特徴を、ワークシートと照らし合わせて振り返らせる。</li> <li>・本時の授業の流れを板書しておき、説明する。</li> <li>・本時は、実際に使用する粘土を吟味しながら、日本文化特有の「包む」ところに重点を置いて、試作品的なものを作ることを伝える。</li> <li>・材料である粘土の特性を感じ取りながら、粘土の柔らかさと、自由に形が作れる特性を生かしたオリジナル和菓子のアイデアを生み出していくことを考えながら作業するように助言する。</li> <li>・「スムーズに着色できない」と苦労している生徒には、「絵の具をもう少しゆるく溶いて粘土とこねよう」と助言する。</li> <li>・和菓子のよさを挙げて、その中で自分がよいと思うポイントに絞って考えることを助言する。</li> <li>・透明性のある粘土はどのような和菓子を作るときに適しているかを考えながらアイデアスケッチするように助言する。</li> <li>・今日の体験に基づいて、粘土の持つ透明性や、粘土と絵の具が混ざったときの発色などを振り返って、実際にそれが口に入ることを想像して、「食べたい」と思うような和菓子のイメージをスケッチする。</li> <li>※和菓子を作る上で粘土のよさを生かし、和菓子の持つ特徴を大切にしながらアイデアを考えスケッチできたか。(スケッチ画)</li> <li>・和菓子を作る上で粘土の特性を生かして、自分のオリジナル作品にしていくよう伝える。</li> <li>・今日の体験を生かして、次回はアイデアスケッチを深めていくことを助言する。</li> </ul>

3 研究のまとめ

- 粘土2種類を実際に触り、着色の仕方を体験したあと、オリジナルの和菓子をデザインしてみた。粘土の特性を生かそうとしているアイデアが見られる。



- 体験を基に、自分のアイデアを広げる。制作手順もイメージしている。



- 自分が考えた和菓子を商品化することを考える。



- あんの包み方についてのプリントを配付して、粘土で作る過程も似た作業であることを理解させられた。



アイデアを練ることは難しかったようであるが、粘土に絵の具を混ぜて着色していくことや、2種類の粘土の違いを理解したことで、素材を生かすことを考えて制作したことが、ワークシートからも感じ取られた。また、楊枝や竹串、ピンセットや型、伸ばし棒を使用するなど、道具の使い方も適切に判断をして積極的に使用しようとしていた。

#### 4 今後の課題

本題材には、生徒達は積極的に取り組み、和菓子の意味を深く考えた良い作品を残すことができた。話し合い活動を取り入れたことで、より良いものを制作することが出来た。反面、自分のアイデアに自信が持てず、参考作品を、模倣して終了しようとした生徒もいるので、今後、友達のアドバイスや参考作品は、考えるきっかけであることを念頭に置かせて指導したい。

また、最後の鑑賞会では、販売企画書をもとに、スクリーンなどを使って和菓子の企画会（ディスカッション）などができると、次の制作活動につながっていくはずであった。この「企画会」と名をうった鑑賞会を次年度は取り組んでみたい。



【制作活動（絵の具と粘土を混ぜる）】



【板書構成】



【制作活動（絵の具と粘土を混ぜる）】



【制作活動（包んだ粘土を割る活動）】



【教師による机間指導】



【制作活動（各班の取組の様子）】

